

は鏡と名を名法師と法華の文句と見えたり也
は法の人と見えたり人此法に依りて得道を是
故に弘法の人能自利に依りて大慈を發し名
利高擧の心を去り利他宣説に倦む事なし是を
法師と名づくともなり然るに我等の如く愚僧の多く
真の法師を稀りと別け此國の汝門に只名高のみ
かりて学智も少く勿論德行も改悪の心もよく
酒を嗜み肉を飽きて信施を費す事限りなく一偈
も解せぬ嫉妬貪慾を以て心を狂ふ衣鉢を揮き

衣装麗しさを以て能く無道徳尊重せらる事いと
當ひさしは清淨實信の供養人更所に報く事
は是れの一つなりと十論經のの説終るに汝等名聞の能善
破戒の惡僧の誦經何の功德あるん破戒貪慾の惡僧は
受信施の者とは惡魔と名づく則ちば偷盜罪よりん
り佛法中の強賊なり南無律師に無刀乃大賊と破られ
たり大論の能く智恵の空受信施無道行無徳の金
獸の懺悔懺罪終るに無懺の空を食信施の我の善
業父母の善業は中せらるる一編に張りて無徳の空